

<特集補遺「連用修飾的複文」>

言語データ「連用修飾的複文」  
—クメール語—

Data, Special Issue: “Clause combining”  
-Khmer-

上田 広美  
Hiromi Ueda

東京外国語大学大学院総合国際学研究院  
Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は, 特集「連用修飾的複文」の調査票に基づきクメール語の資料を収集したものである.

Abstract: This article provides Khmer data collected by using the questionnaire prepared for the special issue “Clause combining”.

キーワード: クメール語, カンボジア語, 複文, 接続, 修飾

Keywords: Khmer, Cambodian, clause combining, conjunction, modification

## 1. はじめに

以下, アンケートに従って言語データを示す. 例文とそれに関する判断は, バン・ソバタナ氏<sup>1</sup>にご教示いただいた. 以下, 本稿の表記は音韻表記で, 坂本(1988)に従う.

## 2. データ

1. 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる.

kəət	taeŋ	tae	ŋam	baaj	bəndaə	ʔaan	kaasaet	bəndaə
3SG	always	eat	meal	while	read	newspaper	while	

同時動作を表す表現としては, 上記の例のようにそれぞれの節の末尾に /bəndaə/ を付加する表現がある. 同時に行う動作を追加していく「～もして, ～もして」という場合には, それぞれの節の末尾に /phəŋ/ を付加する. いずれも, 締めくくる表現は特に用いない. また, 「歌い踊る」「飲み食いする」など補語を付けない場合には単に動詞を連続させることもある.

2. (私は) 昨日は8時に家に帰って, 少しテレビを見て(から), 寝ました.

pīi	msəlməŋ	kɲom	trəoləp	məək	dəl	ptəəh			
yesterday		1SG	back	come	arrive	house			
nəv	maoŋ	pram	bəj	məəl	tuurəətəh	bəntəc	ruoc/haəj	cool	kəeŋ
in	time	8	watch	TV	a little	finish	enter	lie down	



本稿の著作権は著者が保持し, クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します.  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> カンボジア王立プノンペン大学社会人文学部国文学科教員. 本稿へのご協力に深く感謝する.

同時ではなく継起の場合には、先行する動作を表す動詞句に「～し終わる」という意味の動詞 /ruoc/ や、完了を表す /haəj/ を付加し、接続形式とする。継起的動作・物語的連鎖文の文中の動詞の形式は定形の動詞を用いる。

3. (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

pɪi	msəlməŋ	kɲom	duol	nəv	còndaə	ròɔbuoh
yesterday		1SG	fall down in	stairs	injure	

この例文のような継起（理由）を表すには、特別な接続詞は必要とせず、定形の動詞を連続させることができる。

4. 今日父は会社に行って、兄は大学に行った。

tɲaj	nih	ʔəvpòk	kɲom	təv	tvəə	kaa	
day	this	father	1SG	go	work		
(ʔae)	bɔəŋ	proh	kɲom	kɔə	təv	riən	dae
TOP	brother	1SG	CONJ	go	study	PTCL	

異主語の複文は、後節の主語の標示として /kɔə/ が後置されることが多い<sup>2</sup>。さらに「一方～」という意味の /ʔae/ が前置されることもある。物語として連続する内容であれば、とくに対比が成立する主語同士や述語動詞の間でなくても、このような文は可能と考えられる。この例文では述語が同一であることから、後節の末尾に文末詞 /dae/ を置いている。なお、この例文の「会社に行く」「大学に行く」という表現は、単に移動先を表すのではなく移動の目的を表すと解釈し、「働きに行く」「勉強に行く」という動詞の連続として翻訳した。

5. (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

5a)	tɲaj	nih	kɔət	pèək	muok	daə
	day	this	3SG	wear	hat	walk
5b)	tɲaj	nih	kɔət	daə	pèək	muok
	day	this	3SG	walk	wear	hat

付帯状況の表現も動詞は定形のまま連続する。以下の例文は、どちらの語順も可能である。(5b) では、「歩くのに、帽子をかぶっていた」と、後件の動詞句「帽子をかぶる」ことの方がより強調されている。(5b) の後件の動詞句の前に何らかの標識 /daəj/ を置いて「帽子をかぶって」という修飾節にすることもできるが、この例文のような日常的な内容の口語としては不自然である。

6. (私は) 休みの日にはいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

tɲaj	chòp	kɲom	taeŋ	tae	ʔaan	siəvphəv	klah
day	stop	1SG	always	read	book	some	
məəl	tuurəəʔtəh		klah				
watch	TV		some				

並行動作は、定形の動詞に「いくつか」を表す /klah/ を付加することで列挙し、締めくくる表現はとくに用いない。(1) のように同時に行う動作を追加していく「～もして、～もして」という /phɔəŋ/ も用いることができる。

<sup>2</sup> この接続詞の /kɔə/ は、文脈によっては、主語の前に位置することもある。

7. 時間がないから、急いで行こう.

7a)	jəəŋ	kməən	pèel	trəv tae	prəəŋap	ceŋ	təv	
	1PL	not exist	time	must	hurry	out	go	
7b)	jəəŋ	trəv tae	prəəŋap	ceŋ	təv	prəh	kməən	pèel
	1PL	must	hurry	out	go	because	not exist	time

日本語のカラとノデのそれぞれに直接対応する語句はない. 原因や理由を表す節には /prəh/ を用いるが, この例文のような内容であると「時間がない」ことは「急ぐ」理由としてごく当たり前であるので, わざわざ標識を用いて理由であることを明示する必要はないと考えられる. 語順として, 理由を表す節が後にあると, /prəh/ が出現しやすい.

8. 昨日は頭が痛かったので, いつもより早く寝ました.

pii msəlməŋ	kɲom	chuuu	kbaal	doocneh	cool	kəeŋ	chap
yesterday	1SG	ill	head	CONJ	enter	lie down	early
cəeŋ	thəəmməəʔdaa						
than	usual						

(7) では, 原因や理由を表す節に /prəh/ を付加する例を挙げたが, (8) のように結果を表す節の方に, 「従って, そのようなわけで」を意味する /doocneh/ などの語を付加することもできる. (8) でも理由を表す節に /prəh/ を用いて (7) と同じ形の文にすることもできる.

9. あの人は本を買いに行った.

kəət	təv	təŋ	siəvphəv
3SG	go	buy	book

移動の目的を表す文では, 移動の目的は, 移動を表す動詞の後に置く. 動詞は定形である. (10)の例にある, 目的を明示する /dəəmbəj/ は用いない. 移動の目的に限らず, 「魚を食べるために焼いた」など, 同じように定形の動詞の連続によって動作の目的を表す用例がある.

10. (彼は) 外がよく見えるように窓を開けた.

kəət	baək	bəŋʔuoc	dəmbəj	məəl	khaəŋ	krav	ʔəoj	khəəŋ	cbah
3SG	open	window	to	look	side	outside	CAUS	see	clear

目的・意図を表す節には, /dəmbəj/ を用いることができる. 動詞の形や法は変わらない.

11. ここでは夏になると, よく雨が降ります.

nəv	tii	nih	pliəŋ	ʔussaa	tləək	nəv	rəədəv	kdav
in	place	this	rain	frequent	fall	in	season	hot

恒常的条件を表す場合に, 特別な条件形式は用いない.

12. 窓を開けると, 冷たい風が入って来た.

pèel	baək	bəŋʔuoc	kjəl	trəcək	bək	cool	məək
time	open	window	wind	cold	blow	enter	come

確定条件(生起)を表す文で, 全体が過去の文であり, もうすでに起きたことを表す, 異主語による継起的連続については, 条件形式を用いない. この (12) のように, 時を表す名詞で過去であることを

示したり、あるいは「そうしたら」 /təp/ という接続詞を用いて前後関係を示す。

13. 坂を上ると、海が見えた。

daə	laŋ	təv	ləə	təp	khəəŋ	saʔmot
walk	up	go	on	CONJ	see	sea

確定条件（発見）を表す文で、主節が「発見」の事態となっているものも、(12)と同じく、条件形式を用いない。時を表す名詞を用いたり、「そうしたら」 /təp/ という接続詞を用いることで時間的な前後関係を示す。

14. 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

sʔaek	baə	pliəŋ	kɲom	ʔət	təv	tii	nuh	tèe
tomorrow	COND	rain	1SG	NEG	go	place	that	PTCL

一般的な条件文は、条件を表す節に、/baə/ を用いる。

15. もっと早く起きればよかったなあ。

baə	kɲom	kraok	pii	deek	chap	cəəŋ	təp	lʔəə
COND	1SG	wake	from	lie down	early	than	CONJ	good

反実仮想では、条件を表す節に、/baə/ を用いる。過去と関連した形式や、特徴的な法の形式は現れない。

16. あんなところへ行かなければよかった。

baə	kɲom	ʔət	təv	tii	nuh	təp	lʔəə
COND	1SG	NEG	go	place	that	CONJ	good

反実仮想で、前件の条件が否定になっているものも条件を表す節にも、/baə/ を用いる。過去と関連した形式や、特徴的な法の形式は現れない。

17. 1に1を足せば、2になる。

muoj	bəək	muoj	trəv	cəə	pii
1	plus	1	correspond	be	2

一般的真理は、条件を表す/baə/ など特別な形式は用いられない。この例文の場合、「1を加えた1は2に相当する」という表現となる。

18. 駅に着いたら電話をしてください。

dəl	pèel	təv	dəl	sthaanii	soom	tee	məək	kɲom	phəəŋ
arrive	time	go	arrive	station	REQ	call	come	1SG	PTCL

仮定条件で、後件に働きかけのモダリティが現れる文では、特別な形式は用いられない。条件形式を用いず、時を表す名詞に「至る」 /dəl/ を前置して文頭に置くという語順によって示すことが多い。

19. 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

dəl	tɲaj	ʔaatut	jəəŋ	cəŋ	təv	lèəŋ	suon	cəə	muoj	knèə
arrive	day	Sunday	1PL	want	go	play	park	together		

(18)と同じく、仮定条件で後件に願望のモダリティが現れる文では、特別な形式は用いられない。

条件形式 /baə/ を用いず, 時を表す名詞に「至る」 /dol/ を前置して文頭に置くという語順によって示すことが多い。

20. 明日雨が降ったら困るなあ。

sʔaek	baə	pliəŋ	kɲom	piʔbaak	nah
tomorrow	COND	rain	1SG	hard	very

この例文のような「心配法」のような動詞の形式はない。条件を表す節に, /baə/ を用いる。

21. 家に来るなら, 電話をしてから来てください。

baə	kaal	naa	nək	mək	ptəh	kɲom
COND	time	which	2SG	come	house	1SG
soom	tee	prap	mən			
REQ	call	tell	before			

時間的前後関係に則していないナラ条件文では, 特別な形式は用いられない。条件を表す節に, /baə kaal naa/ 「～するいずれかの場合には」を用いることが多い。

22. (もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら, 教えてください。

(pəl)	nək	luu	soo	kəndəŋ	soom	cuoj	prap	kɲom	phəŋ
time	2SG	hear	sound	bell	REQ	help	tell	1SG	PTCL

予想を伴った条件文では, 特別な形式を用いないが, 英語で *when* が用いられるのと同じく「時」を表す節を用いることもできる。この (22) の文末の /phəŋ/ は, 「～してください」という依頼を表す。

23. (もしかしたらベルが鳴るかもしれないので) もし鳴ったら, 教えてください。

baə	kaal	naa	nək	luu	soo	kəndəŋ
COND	time	which	2SG	hear	sound	bell
soom	cuoj	prap	kɲom	phəŋ		
REQ	help	tell	1SG	PTCL		

予想を伴わない条件文でも, (21) と同じく, 条件を表す節に, /baə kaal naa/ 「～するいずれかの場合には」を用いることが多い。この (23) の文末の /phəŋ/ も, 「～してください」という依頼を表す。

24. 働かざるもの食うべからず。／働かない者は, 食べるべきではない。

nək	(naa)	dael	mum	tvəə kaa	mum	kuo	hoop	baaj
person	which	REL	NEG	work	NEG	should	eat	meal

この例文は, 「(誰であれ) 働かない人は, 食べるべきではない」と表現する。この構文は, 内容的に超時的な一般論を示す場合のみに用いられるわけではない。この例文から /dael/ を削除して, 「誰が働かないのか, 食べるべきではない」と同じ形でも言うこともできるが, その場合には /naa/ は必要である。

25. もう少しお金があったらなあ。

baə	mən	løj	cræn	lʔə	nah
COND	have	money	many	good	very

この言いさし(願望)にあたる例文は, 「良い」という後件を付けた表現となる。

26. これも食べたら？

piʔsaa nih phɔɔŋ coh  
eat this PTCL PTCL

この言いさし（提案）にあたる例文は、命令文を用いる。/phɔɔŋ/は、(22)と(23)では「～してください」という依頼を表したが、この(26)では、「(他の物とあわせてこれ)も」という追加を表す。また、文末詞の/coh/は、命令を表す。/phɔɔŋ/と/coh/は、文末詞と呼ばれるが、正確には節の終わりに付加され、複数の文末詞が連続することもある。しかし組み合わせや語順には制限があり、/phɔɔŋ coh/の語順は許されるが、逆の語順は許されない。

27. (やりたいなら自分の)好きなようにやれば？

tvəə taam cət coh  
do follow mind PTCL

この言いさし（つき放し）にあたる例文は、条件表現を付けずに命令文を用いる。文末詞の/coh/は、命令を表す。

28. このコップは落としても割れない。

kaev nih tləək mun baek tèe  
glass this drop NEG break PTCL

仮定的な逆接で、コップについての恒常的性質を問題にする表現では、特別な接続詞を用いず、定形の動詞を連続させる。

29. このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

paom nih tɛ̃n tlaj tae ʔət pʔaem sɔh  
apple this buy expensive but NEG sweet PTCL

主節従属節共に、すでに実現した事柄についての逆接表現は、逆接の接続詞 /tae/ を用いる。

30. 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

kɲom saak tɔ̃v ptəəh kɔət məəl tae kɔət ʔət nə̃v  
1SG try go house 3SG look but 3SG NEG be in

異主語による逆接の表現は、逆接の接続詞 /tae/ を用いる。

31. あの人が来るまで、私はここで待っています。

kɲom cam tii nih rə̃hooht dɔl kɔət məək  
1SG wait place this throughout till 3SG come

時間的期限を表す特別な形式はない。「～までずっと」は /rə̃hooht dɔl/ を用いる。

32. あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。

kɲom tvəə mhoõp ʔaɔj haəj mɔ̃n kɔət məək  
1SG make dish CAUS PRF before 3SG come

時間的期限を表す特別な形式はない。「～までに」は /mɔ̃n (pèel dæl)/ (before + time + REL) 「～する前に」という表現を用いる。

### 3. おわりに

以上, クメール語の言語データを示した. 今回の調査では, 特別な形式が現れない例文も多かったが, 条件節に相当する表現として, 何の標識も現れない場合と, /baə/や /baə kaal naa/ のような形式を用いる場合の意味の違いについては今後さらに検討をしたい.

略語は以下の通り. 使役 CAUS, 条件 COND, 接続詞 CONJ, 1 人称 1, 否定 NEG, 文末詞 PTCL, 完了 PRF, 複数 PL, 依頼 REQ, 主題 TOP, 2 人称 2, 単数 SG, 3 人称 3, 自由交替 /

### 参考文献

和文

坂本恭章.1988. 「クメール語」, 『言語学大辞典第1巻世界言語編(上)』, pp.1479-1505, 亀井孝, 河野六郎, 千野栄一編, 三省堂.

執筆者連絡先 : uedahiro@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2019年12月3日